

こころ便り

第280号
令和5年7月

〒679-1434
兵庫県たつの市新宮町大屋六六八十二
株式会社 新宮運送グループ
代表/木南 一志
kiminomi@shingu.co.jp
電話 0791-750-1212



新宮運送ホームページ

「事故は起きない」が、あたりまえ

暑い夏がやってきます。熱中症はなつてからでは遅いのです。事前の予防ということを考えて、水分補給だけでなく、体調不良や寝不足など、自分の生活管理が大切です。しっかりと休みながら、暑さを乗り切つてまいりましょう。

安全についての考え方を聞かれる時があります。私は、運送業としてたくさんトラックを走らせているというイメージがあるのか、事故が起きるから大変でしょうねとよく言われることがあります。確かに車の台数が増えることと危険性の確率は高くなると思います。だからといって、事故がたくさん発生するのでしょうか。事故のない職場は、一見危険そうに見えても長い間無事故記録を継続しているところはたくさんあります。

若かりし頃、仕事をたくさん取ってきて売り上げを上げ、利益を出して社員の皆さんに決算賞与として還元するのがいい会社だと考えていて、仕事で追い回すようにしていた時代がありました。その当時、良くこれで死ななかつたなあという大事故が一年に何回か起きておりました。そのたびに事故処理にあたりながら、これは運送業という仕事の宿命のようなもので仕方ないことなのだと考えておりました。しかし、あるとき大自然の原理原則は、「事故を起こさない」と気づかされたのです。トイレ掃除をしていて、仕上げの水を流して

るときでした。「ああ、水は上から下へ流れるのだなあ」と思ったときに閃いたのです。自分の仕事は下から上へとやっているようなもので、一回で終わることなく、何度もやり直している。「事故は起きないことが当たり前」と考えると、それまでの仕方ないと思えていたことがしてはならないことをしているから事故が起きるのだとわかってくるのです。それは、制限速度を守りましょうとか一旦停止をしっかりとしないといけないという交通ルールを守ることではないのです。制限速度を守っていても死亡事故は起きます。

大自然の中に隠された原理原則は、決して事故を起こしません。台風や大地震での災害は人間から見ているから困った現象になりますが、大自然の側からいうと循環のための工程と言えます。

「いいかげん」ではなく「良い加減」が、名実を生き出すようにプロの道を歩めば「事故は起きない」が、あたりまえなのです。

被災地にこころを寄せながら

木南 一志 拝

尋常小學國史 上巻

第六 聖徳太子①

仁徳天皇より御十八代めの天皇を三代推古天皇と申す。天皇は女帝にまします。政治を御甥の聖徳太子にまかせたまへり。

太子は御生れつき人にすぐれて賢くましく、一時によく十人の訴を聞分けたまひしといふ。其の上に、朝鮮の學者について、深く學問をさめたまひしかば、朝鮮支那のよきところをとりて、いろく新しき政治をはじめたまひ、遂に十七條の憲法を定めて官民の心得べきことを示したまへり。

太子は又使を支那につかはして、交際をはじめたまへり。其の頃支那は國の勢強く、學問なども進みたりしかば、常にみづから高ぶりて、他の國々を皆屬國の如くにとりあつかへり。されど太子は少しも其の勢に恐れたまふことなく、彼の國につかはしたまひし國書にも、



聖徳太子

「日出づる處の天子、書を日没する處の天子にいたす、恙なきか」とか、せたまへり。支那の國主これを聞いて、いかりた

れども程なく使を我が國につかはしたり。よりて太子はさらに留學生をも彼の國に送りたまひ、其の後引きつゞき兩國の間にゆききありたれば、これまで朝鮮を経て我が國に渡り來りし學問などは、たゞちに支那よりつたはることなれり。

つづく

NPO法人 愛ランド様の協力で障害を持つ皆さんが宛名貼り、封入作業をしてお届けさせて頂いていただいております。